

胃ろうについて

3班

胃ろうをめぐるって

人間としての精神的な機能(認知機能を含む)をなくした高齢者



そのまま自然の寿命に
まかせるべき



胃ろうを含む人工的栄養、
水分補給など可能な医療
を適切に行ってできるだけ
生命の延長をはかるべき

人間としての生涯

どのような状態
でも生きる時間
が長ければ長い
ほどいい

精神活動が停止
したら人間として
の生は終わり

胃ろう造設後は・・・

30日 90%over

1年 60%over

5年 20～25%

胃ろう抜去 およそ6%

中心静脈栄養より延命期間長い...かも
誤嚥性肺炎などは起こりうる

胃ろうアパート

「エイリアン」の施設？

「寝たきり高齢者専用集合住宅」

- 狭い部屋にベッドが置かれ、終末期の高齢者が、ただ天井を向いて、毎日を過ごしている。
- 感情表現もできず、寝返りも打てないほど弱っても、栄養状態がよいので生き続ける。

中京地区に集中

- 愛知、岐阜、三重など
- 中京地区に数カ所「寝たきり老人専用住宅」を展開する株式会社の存在

月額利用料は13～14万円前後

- 家賃 ¥54,000
- 共益費 ¥16,890
- おむつ・日用雑貨等 約¥20,000
- 介護保険サービスの1割負担 約¥36,000

※家賃が安い地域では10万円前後

グレーゾーン商売

- 提携した診療所の医師・看護師が定期訪問
- 訪問看護事業者に主治医が特別指示書
⇒通常より高額な訪問看護費発生

☆アパートの経営者は多額の報酬を得る

☆裏で経営コンサルタントとの提携？

石原幹事長の発言

「意識がない人に管を入れて生かしている。何十人も寝ている部屋を見せてもらった時に何を思ったかということ(SF映画の)エイリアンだ。人間に寄生しているエイリアンが人間を食べて生きているみたいだ」

それぞれの考え

- 自分たちでは世話できない(体力的・精神的・時間的負担が大きい)
- 何もしないのは殺人に等しい
→心臓が止まるまでは「生きている」

家族

- ・家族の考えに合わせる
- ・「生かす」のが自分の仕事
→延命する
- ・「どう生かすか」を重視する
→延命しない

主治医

儲かる

アパート経営者

欧米

進行した認知症患者には胃ろうの造設は通常行わない

胃ろうは回復が見込まれる患者への一時的処置

「患者に利益をもたらす医学的根拠がない」
(米アルツハイマー協会など欧米の専門家集団)

胃ろう(人工栄養)導入に否定的

胃ろう＝虐待？

がんの終末期と同様、認知症の終末期も、水分や栄養はあまり与えないほうが患者にとって苦痛が少ない

アメリカでは意識がない患者を長期延命してしまうという点で**高齢者虐待**という意見も

「患者に利益をもたらす医学的根拠がない」

(米アルツハイマー協会など欧米の専門家集団)

ヨーロッパなどでは

寝たきり老人が少ない



ぴんぴんころりが実現している



無理な延命治療は行わない



大事なものは長さではなく質

日本老年医学会の立場表明

2001→2012

高齢であることや自立能力が低下しているなどの理由により、適切な医療およびケアが受けられない差別に反対する。すべての人にとって、「最善の医療およびケア」を受ける権利は基本的人権のひとつである。



胃瘻造設を含む経管栄養や、気管切開、人工呼吸器装着などの適応は、慎重に検討されるべきである。すなわち、何らかの治療が、患者本人の尊厳を損なったり苦痛を増大させたりする可能性があるときには、**治療の差し控えや治療からの撤退**も選択肢として考慮する必要がある。

生きているということとは

生きていることは良いことであり、多くの場合本人の益になる——このように評価するのは、本人の人生をより豊かにし得る限り、生命はより長く続いたほうが良いからである。医療・介護・福祉従事者は、このような価値観に基づいて、個別事例ごとに、本人の人生をより豊かにすること、少なくともより悪くしないことを目指して、本人の QOL の保持・向上および生命維持のために、どのような介入をする、あるいはしないのがよいかを判断する

生きることは
いいこと

本人の人生をよ
り豊かにする限り

医師会

日本では今までタブー視されてきたが、
延命治療の撤退も選択肢に



個人の尊厳を尊重

日本の見通し

近い将来→**超高齢化社会**に突入

高齢者の割合は増加し、それに伴い植物状態に陥るリスクを持った人々が増加

胃ろうは・・・？

日本の見通し

生きることはいいこと



長いことが幸



胃ろう増加



尊厳を保つことが第一



胃ろう減少

尊厳死をスムーズに実現するために

もしものときのことを考え
意思決定を事前に行い、形に残しておく

遺言を書くことを義務化
更新制(例:20歳～、3年ごと)